

経済レポート

景気ウォッチャー調査(東海地区:2016年8月)

～ 現状判断DIは2ヶ月ぶりに低下、13ヶ月連続の50割れ ～

調査部 鈴木明彦 塚田裕昭 杉本宗之

9月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、**東海地区の8月の現状判断DI(3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断:各分野計)**は、前月差0.3ポイント低下の43.9と2ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を13ヶ月連続で下回った。家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同2.0ポイント低下の42.0と2ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を13ヶ月連続で下回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同3.0ポイント上昇の47.7と2ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を5ヶ月連続で下回った(注1)。

現状判断DI(方向性)

	各分野計				家計動向関連				企業動向・雇用関連			
	東海	(前月差)	全国	(前月差)	東海	(前月差)	全国	(前月差)	東海	(前月差)	全国	(前月差)
16年 6月	40.3	(-1.9)	41.2	(-1.8)	39.3	(-2.3)	40.2	(-1.7)	42.3	(-1.1)	43.2	(-2.1)
7月	44.2	(+3.9)	45.1	(+3.9)	44.0	(+4.7)	44.5	(+4.3)	44.7	(+2.4)	46.4	(+3.2)
8月	43.9	(-0.3)	45.6	(+0.5)	42.0	(-2.0)	44.1	(-0.4)	47.7	(+3.0)	48.7	(+2.3)

8月の先行き判断DIは、前月差0.4ポイント上昇の47.5と2ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を7ヶ月連続で下回った。家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同0.3ポイント低下の47.4と2ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を7ヶ月連続で下回った。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同2.0ポイント上昇の47.7と2ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を3ヶ月連続で下回った。

先行き判断DI(方向性)

	各分野計				家計動向関連				企業動向・雇用関連			
	東海	(前月差)	全国	(前月差)	東海	(前月差)	全国	(前月差)	東海	(前月差)	全国	(前月差)
16年 6月	40.5	(-7.7)	41.5	(-5.8)	42.4	(-4.9)	41.5	(-5.0)	36.9	(-13.1)	41.6	(-7.4)
7月	47.1	(+6.6)	47.1	(+5.6)	47.7	(+5.3)	46.6	(+5.1)	45.7	(+8.8)	48.3	(+6.7)
8月	47.5	(+0.4)	47.4	(+0.3)	47.4	(-0.3)	46.3	(-0.3)	47.7	(+2.0)	49.8	(+1.5)

現在の景気の水準自体に対する判断DI(各分野計)は、8月は前月差2.4ポイント低下の41.0と3ヶ月ぶりに低下し、中立を示す50を13ヶ月連続で下回った。家計動向関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは、同2.9ポイント低下の38.9と3ヶ月ぶりに低下し、中立を示す50を29ヶ月連続で下回った。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは、同1.3ポイント低下の45.4と2ヶ月ぶりに低下し、中立を示す50を5ヶ月連続で下回った。

現状判断DI(水準)

	各分野計				家計動向関連				企業動向・雇用関連			
	東海	(前月差)	全国	(前月差)	東海	(前月差)	全国	(前月差)	東海	(前月差)	全国	(前月差)
16年 6月	40.1	(+0.5)	40.3	(-0.8)	38.0	(+2.0)	38.2	(-0.6)	44.2	(-2.5)	44.8	(-1.1)
7月	43.4	(+3.3)	43.4	(+3.1)	41.8	(+3.8)	42.3	(+4.1)	46.7	(+2.5)	45.8	(+1.0)
8月	41.0	(-2.4)	42.5	(-0.9)	38.9	(-2.9)	40.3	(-2.0)	45.4	(-1.3)	47.2	(+1.4)

内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方として「景気は、持ち直しの動きがみられる。先行きについては、引き続き海外経済や金融資本市場の動向等への懸念がある一方、公共工事の増加や求人増加の継続等への期待がみられる」とまとめ、現状判断を改善させている。

(7月のまとめ)「景気は、金融資本市場が落ち着きを取り戻す中、持ち直しの兆しがみられる。先行きについては、引き続き海外経済や金融資本市場の動向等への懸念がある一方、経済対策への期待がみられる」

東海経済についての東海地区の景気ウォッチャーの見方として「景気は弱い動きが続いているが、企業動向・雇用関連では、英国のEU離脱問題に対する懸念が落ち着いて円高が一服する中、やや改善してきている。先行きについては、景気を良くする材料が見つげにくい中、円高による企業活動の停滞に対する懸念が続いている」とまとめられる。

(7月のまとめ)「景気は家計動向関連、企業動向・雇用関連ともに弱い動きが続いている。英国のEU離脱問題に対する懸念は落ち着いてきたが、円高に対する懸念が続いている。先行きについては、景気を良くする材料が見つげにくい中、海外経済の動向や円高に対する懸念が続いている」

景気の実況判断DIは2ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を13ヶ月連続で下回った。家計動向関連の実況判断も2.0ポイント低下の42.0と2ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を13ヶ月連続で下回り、弱い動きが続いている。お盆休み、夏のセールといった季節要因は景気を押し上げる材料にはならず、暑さによる外出の手控え、インバウンドの減速がマイナス材料となっている。また、企業動向・雇用関連の実況判断は、横ばいを示す50を5ヶ月連続で下回り弱い動きが続いているが、2ヶ月連続で上昇した。英国のEU離脱問題に対する懸念が落ち着く中、円高が一服したこともあり、弱いながらもマインドが改善している。

景気の先行き判断DIは2ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を7ヶ月連続で下回った。家計動向関連の先行き判断は2ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を7ヶ月連続で下回った。また、企業動向・雇用関連はDIが2ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を3ヶ月連続で下回った。家計動向関連では節約志向が続きプラス材料を見つけにくい中、天候要因などによる価格の上昇が懸念されている。企業動向・雇用関連では、英国のEU離脱問題に対する懸念は落ち着いているが、円高が懸念材料となっており、設備投資の先行きを懸念する声もある。景気が良くなる材料が見つげにくい中、政府・日銀の経済対策の効果や意義に対する懐疑的な見方が出ている。

(注1) 企業動向関連と雇用関連からなるDIは、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(注2) 3大都市圏の都府県内訳は以下の通り。

東海 = 愛知、岐阜、三重、静岡

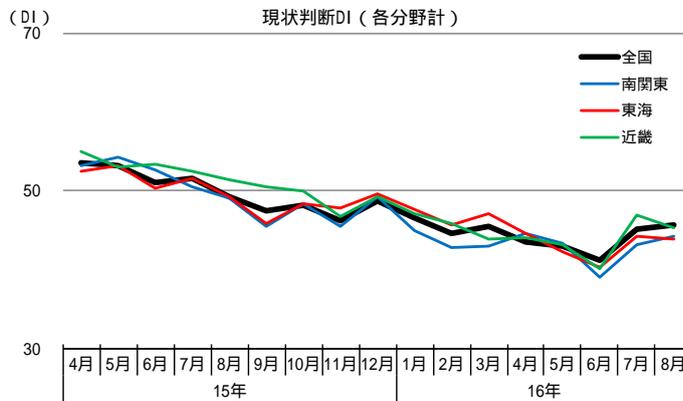
南関東 = 埼玉、千葉、東京、神奈川

近畿 = 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

1. DIの動向

(1) 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

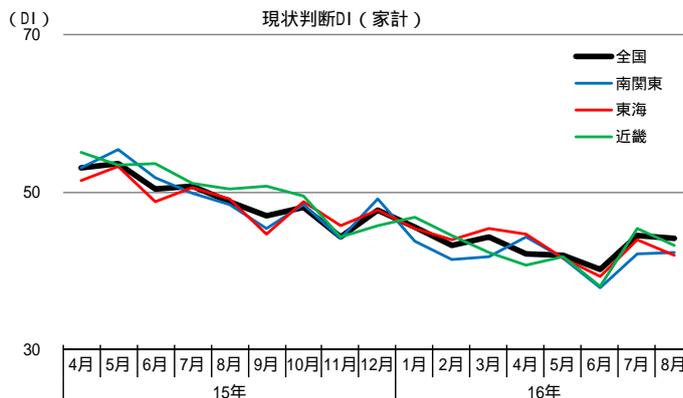
3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI(各分野計)は、前月差0.3ポイント低下の43.9と2ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を13ヶ月連続で下回った。近畿、全国よりやや低く、南関東とほぼ同水準となっている。



各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
15年	4月	53.6	53.2	52.5	54.9	
	5月	53.3	54.2	53.2	53.1	
	6月	51.0	52.6	50.3	53.3	
	7月	51.6	50.5	51.6	52.4	
	8月	49.3	49.1	49.2	51.4	
	9月	47.5	45.5	45.8	50.5	
	10月	48.2	48.4	48.3	49.9	
	11月	46.1	45.5	47.7	46.8	
	12月	48.7	49.3	49.5	49.2	
	16年	1月	46.6	44.9	47.6	47.1
		2月	44.6	42.8	45.6	45.9
		3月	45.4	42.9	47.1	44.0
4月		43.5	44.6	44.7	44.1	
5月		43.0	43.4	42.2	43.1	
6月		41.2	39.1	40.3	40.1	
7月		45.1	43.2	44.2	46.9	
8月		45.6	44.3	43.9	45.4	

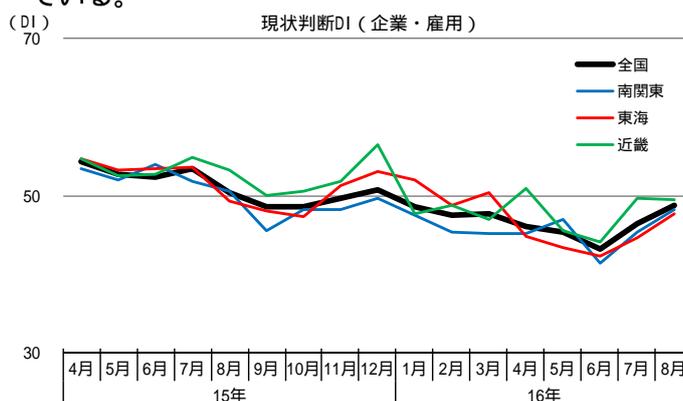
家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同2.0ポイント低下の42.0と2ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を13ヶ月連続で下回った。近畿よりやや低いが、南関東、全国とほぼ同水準となっている。



家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
15年	4月	53.2	53.1	51.5	55.0	
	5月	53.6	55.4	53.2	53.4	
	6月	50.4	51.9	48.8	53.6	
	7月	50.8	49.9	50.5	51.2	
	8月	48.8	48.4	49.2	50.4	
	9月	47.0	45.5	44.7	50.8	
	10月	48.1	48.4	48.8	49.5	
	11月	44.4	44.1	45.8	44.2	
	12月	47.7	49.1	47.7	45.7	
	16年	1月	45.6	43.7	45.4	46.8
		2月	43.2	41.5	44.0	44.4
		3月	44.3	41.8	45.4	42.4
4月		42.2	44.2	44.6	40.7	
5月		41.9	41.6	41.6	41.9	
6月		40.2	37.9	39.3	38.1	
7月		44.5	42.1	44.0	45.4	
8月		44.1	42.4	42.0	43.2	

企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同3.0ポイント上昇の47.7と2ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を5ヶ月連続で下回った。全国より低く、近畿よりやや低いが、南関東とほぼ同水準となっている。

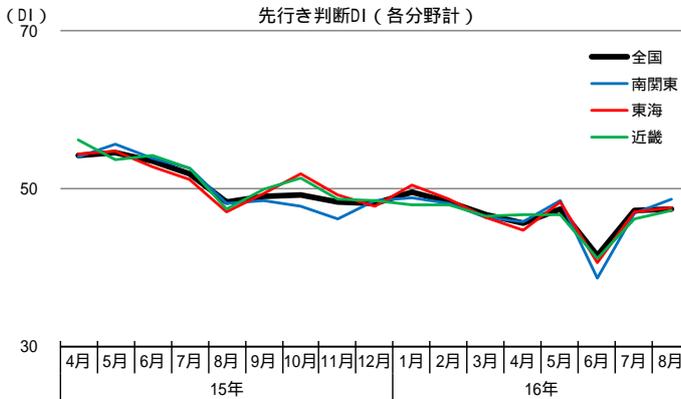


企業動向関連+雇用関連

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
15年	4月	54.4	53.5	54.6	54.7	
	5月	52.7	51.9	53.2	52.6	
	6月	52.3	53.9	53.4	52.8	
	7月	53.4	51.7	53.6	54.9	
	8月	50.4	50.5	49.3	53.3	
	9月	48.6	45.6	48.0	50.0	
	10月	48.5	48.3	47.3	50.6	
	11月	49.7	48.3	51.3	51.8	
	12月	50.8	49.7	53.1	56.4	
	16年	1月	48.6	47.5	51.9	47.7
		2月	47.5	45.3	48.7	48.8
		3月	47.8	45.3	50.3	47.0
4月		46.1	45.3	44.8	50.9	
5月		45.3	47.1	43.4	45.6	
6月		43.2	41.5	42.3	44.0	
7月		46.4	45.3	44.7	49.7	
8月		48.7	48.3	47.7	49.4	

(2) 景気の先行き判断 (2~3ヶ月先の見通し、方向性)

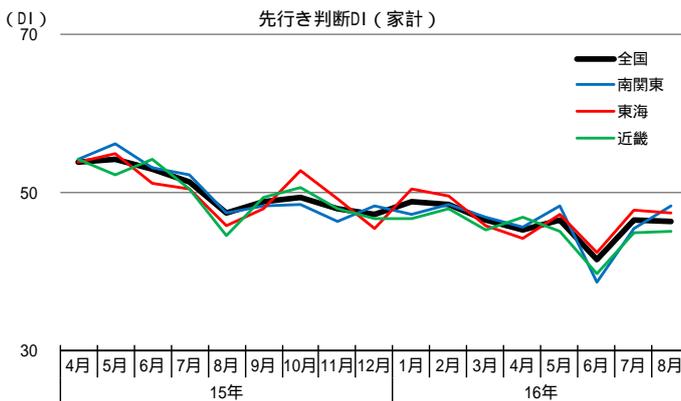
2~3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI (各分野計)は、前月差0.4ポイント上昇の47.5と2ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を7ヶ月連続で下回った。南関東よりやや低い、近畿、全国とほぼ同水準となっている。



各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連) DI

		全国	南関東	東海	近畿	
15年	4月	54.2	54.0	54.3	56.1	
	5月	54.5	55.6	54.7	53.7	
	6月	53.5	53.8	52.7	54.2	
	7月	51.9	52.6	51.1	52.6	
	8月	48.2	48.0	47.1	47.3	
	9月	49.1	48.4	49.4	49.9	
	10月	49.1	47.7	51.9	51.4	
	11月	48.2	46.1	49.2	48.7	
	12月	48.2	48.5	47.7	48.5	
	16年	1月	49.5	48.8	50.4	47.9
		2月	48.2	48.0	48.6	48.0
		3月	46.7	46.3	46.3	46.5
4月		45.5	45.8	44.8	46.7	
5月		47.3	48.5	48.2	46.6	
6月		41.5	38.7	40.5	41.1	
7月		47.1	46.8	47.1	46.1	
8月		47.4	48.6	47.5	47.1	

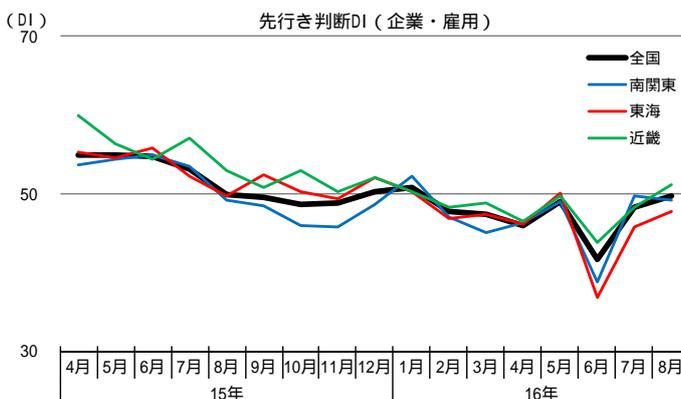
家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同0.3ポイント低下の47.4と2ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を7ヶ月連続で下回った。近畿より高く、全国よりやや高いが、南関東とほぼ同水準となっている。



家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連) DI

		全国	南関東	東海	近畿	
15年	4月	53.9	54.2	53.8	54.1	
	5月	54.3	56.3	54.8	52.3	
	6月	52.9	53.2	51.2	54.1	
	7月	51.3	52.2	50.5	50.4	
	8月	47.4	47.4	45.8	44.5	
	9月	48.9	48.3	47.9	49.4	
	10月	49.3	48.5	52.7	50.6	
	11月	47.9	46.3	49.1	47.9	
	12月	47.2	48.3	45.5	46.7	
	16年	1月	48.8	47.2	50.5	46.6
		2月	48.5	48.5	49.5	47.9
		3月	46.4	46.9	45.7	45.3
4月		45.3	45.6	44.1	46.8	
5月		46.5	48.2	47.3	45.1	
6月		41.5	38.6	42.4	39.7	
7月		46.6	45.4	47.7	45.0	
8月		46.3	48.2	47.4	45.0	

企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同2.0ポイント上昇の47.7と2ヶ月連続で上昇したが、中立を示す50を3ヶ月連続で下回った。近畿、全国より低く、南関東よりやや低くなっている。



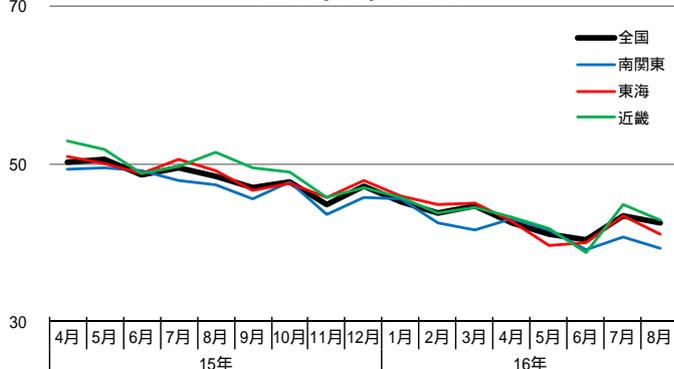
企業動向関連+雇用関連 DI

		全国	南関東	東海	近畿	
15年	4月	55.0	53.7	55.3	59.9	
	5月	54.9	54.4	54.5	56.3	
	6月	54.7	54.9	55.7	54.3	
	7月	53.1	53.5	52.3	57.0	
	8月	49.9	49.3	49.7	53.0	
	9月	49.5	48.5	52.4	50.9	
	10月	48.7	46.0	50.3	52.9	
	11月	48.9	45.8	49.4	50.3	
	12月	50.3	48.7	52.1	52.1	
	16年	1月	50.8	52.3	50.3	50.3
		2月	47.7	47.1	46.8	48.3
		3月	47.4	45.0	47.4	48.8
4月		46.0	46.3	46.2	46.5	
5月		49.0	49.0	50.0	49.7	
6月		41.6	38.8	36.9	43.8	
7月		48.3	49.8	45.7	48.3	
8月		49.8	49.3	47.7	51.1	

(3) 景気の現状判断(水準)

現在の景気の水準自体に対する判断DI(各分野計)は、前月差2.4ポイント低下の41.0と3ヶ月ぶりに低下し、中立を示す50を13ヶ月連続下回った。近畿、全国よりやや低いが、南関東よりやや高い水準となっている。

(DI) 現状判断[水準](各分野計)

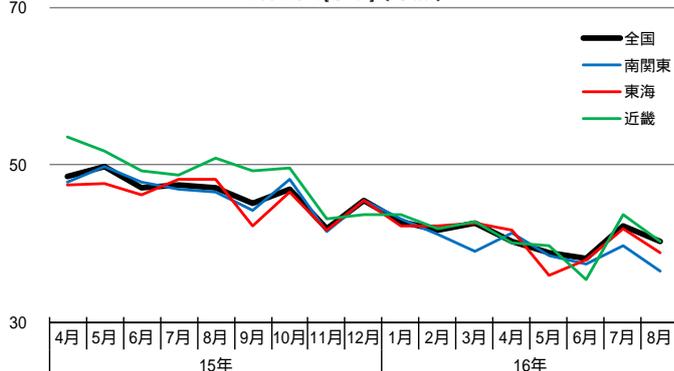


各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
15年	4月	50.3	49.3	51.0	52.8	
	5月	50.6	49.6	50.1	51.8	
	6月	48.6	49.2	48.9	48.8	
	7月	49.5	47.9	50.6	49.7	
	8月	48.4	47.5	49.2	51.5	
	9月	47.0	45.6	46.6	49.5	
	10月	47.7	47.7	47.6	48.9	
	11月	44.9	43.6	45.8	45.7	
	12月	47.3	45.8	48.0	47.1	
	16年	1月	45.3	45.5	45.9	45.7
		2月	43.9	42.5	44.9	43.8
		3月	44.7	41.7	45.1	44.5
4月		42.6	43.1	42.7	43.2	
5月		41.1	41.7	39.6	41.9	
6月		40.3	39.1	40.1	38.9	
7月		43.4	40.8	43.4	44.8	
8月		42.5	39.2	41.0	42.9	

家計動向関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは、同2.9ポイント低下の38.9と3ヶ月ぶりに低下し、中立を示す50を29ヶ月連続で下回った。近畿、全国よりやや低いが、南関東より高い水準となっている。

(DI) 現状判断[水準](家計)

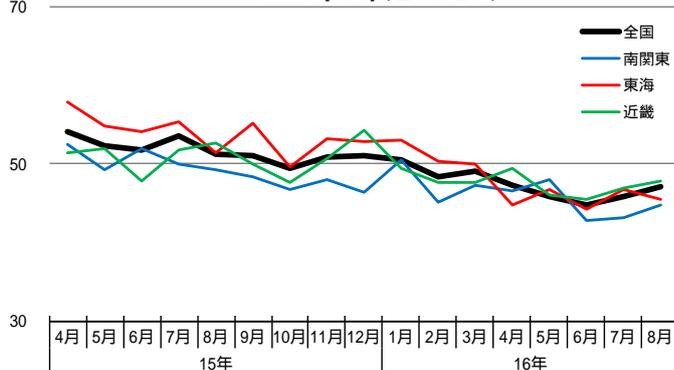


家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
15年	4月	48.5	47.8	47.5	53.6	
	5月	49.8	49.8	47.7	51.7	
	6月	47.0	47.7	46.3	49.3	
	7月	47.5	46.9	48.1	48.7	
	8月	47.0	46.6	48.2	50.9	
	9月	45.1	44.3	42.3	49.2	
	10月	46.9	48.2	46.6	49.5	
	11月	41.9	41.5	41.8	43.2	
	12月	45.4	45.5	45.5	43.6	
	16年	1月	42.8	43.1	42.3	43.8
		2月	41.7	41.1	42.2	41.9
		3月	42.6	39.1	42.5	42.8
4月		40.3	41.4	41.7	40.1	
5月		38.8	38.6	36.0	39.8	
6月		38.2	37.4	38.0	35.4	
7月		42.3	39.7	41.8	43.8	
8月		40.3	36.6	38.9	40.4	

企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは、同1.3ポイント低下の45.4と2ヶ月ぶりに低下し、中立を示す50を5ヶ月連続で下回った。近畿より低く、全国よりやや低いが、南関東とほぼ同水準となっている。

(DI) 現状判断[水準](企業・雇用)



企業動向関連+雇用関連

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
15年	4月	54.0	52.5	57.9	51.5	
	5月	52.3	49.3	54.8	52.0	
	6月	51.7	52.0	54.1	47.8	
	7月	53.5	50.0	55.3	51.7	
	8月	51.2	49.3	51.3	52.7	
	9月	50.9	48.3	55.1	50.0	
	10月	49.5	46.8	49.7	47.6	
	11月	50.8	48.0	53.2	50.6	
	12月	51.1	46.4	52.8	54.3	
	16年	1月	50.4	50.5	52.9	49.4
		2月	48.3	45.1	50.3	47.7
		3月	49.0	47.3	50.0	47.6
4月		47.3	46.5	44.8	49.4	
5月		45.9	48.0	46.7	45.9	
6月		44.8	42.7	44.2	45.5	
7月		45.8	43.1	46.7	46.9	
8月		47.2	44.9	45.4	47.7	

2. ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(1) 景気の現状判断

8月の東海地区の景気の現状判断DI(43.9)は2ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を13ヶ月連続で下回った。部門別にみると、家計動向関連の現状判断DI(42.0)は2ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を13ヶ月連続で下回っている。また、企業動向・雇用関連の現状判断DI(47.7)は2ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を5ヶ月連続で下回った。

現状判断の回答ごとの内訳をみると下表のとおりである。8月調査では、景気の現状について、「やや悪くなっている」という回答が減少したが、「悪くなっている」が増加しており、景気の現状を悪化方向で見ているウォッチャーが多い状況に変わりはない。一方、「やや良くなっている」は変わらなかったが、「良くなっている」が減少し、5月調査をボトムに続いてきた改善方向で回答するウォッチャーの増加が一服する中、景気の現状判断DIは小幅低下した。

現状判断 (回答者数)	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	合計
8月調査	4	45	123	46	7	225
9月調査	0	33	127	50	10	220
10月調査	4	39	125	46	8	222
11月調査	1	41	123	47	8	220
12月調査	4	44	112	46	5	211
1月調査	1	40	135	44	10	230
2月調査	1	42	120	53	16	232
3月調査	1	39	129	52	8	229
4月調査	1	32	119	64	9	225
5月調査	1	18	127	63	13	222
6月調査	3	21	107	82	17	230
7月調査	3	24	129	63	10	229
8月調査	1	24	134	58	12	229

家計動向関連でも現状判断DIが低下しているが、回答ごとの内訳を見ると、改善方向の回答は、「良くなっている」(7月:2 8月:1)が減少したが、「やや良くなっている」(16 17)は増加しており、大きな変化はない。一方、「やや悪くなっている」(43 48)、「悪くなっている」(7 10)という悪化方向の回答がともに増加し、「変わらない」(85 77)が減少する中、現状判断DIが低下した。

家計動向関連では、お盆休みを迎え季節的な盛り上がりが出てきているというコメントもあったが、一般的にやや期待外れというコメントが散見される。

・平均的に販売単価は低いですが、販売量は増加しており、購買意欲は持続している。特にお盆時期は前年に比べ来客数が増加しており、この期間に関しては、高額商品の動きも良く、実売につながっている。(百貨店販売担当)

- ・夏休みで、子供用と思われる昼食の材料を買う客が多く見受けられる。帰省時の果物等の手土産や地元の夏祭りのお菓子、飲料水、アイスクリーム等の売上は良い。(スーパー店員)
- ・夏物バーゲンでもあまり売上は伸びず、買物をする客も節約志向になっている。ガソリン代が安いいため、盆の帰省や短い期間の旅行には自家用車が使われ、お盆期間の高速道路や一般道路は混んでいた。全体的には8月も原油価格が安くデフレが続き、購買意欲は高まらず、景気にはプラスとなっていない。(スーパー経営者)
- ・夏休み、お盆ということもあり、来客数は増加しているが、売上がそれほど伸びていない。(一般レストラン従業員)

天候要因では夏の暑さの影響をあげる声も多かったが、こちらもプラス、マイナス両面があるようだ。飲料水、アイスクリームなどの販売増への貢献がある一方、外出を控えさせるという面ではマイナスとなったようだ。

- ・来客数は前年並で、来店頻度はお盆以降も堅調である。ソフトドリンク、アイスクリームやカウンター販売のアイスコーヒーが好調である。(コンビニ企画担当)
- ・暑い夏で外出をする人が少なく、来客数が大幅に減っている。特に宝石に関しては来客数が減っている。金製品は、少しずつだが動きがある。(その他専門店[貴金属]営業担当)
- ・暑さのためか商店街を歩いている人も見かけない。バーゲン中でも一見客の来店もなく、何十年も商売をしているが、こんな状態は初めてである。(衣料品専門店経営者)
- ・5月ごろまでは客にも動きがあったが、今は暑さで外出が減り、全く駄目である。(美容室経営者)

8月はリオオリンピックが開催されたこともあって、オリンピックの影響について触れたコメントが散見された。日本のメダルラッシュで消費者の気分が高揚して良い影響があったとのコメントがある一方で、TV観戦による来客数の減少で消費にはマイナスとなったとの声もあった。

- ・ボーナス支給や長い休みと共に、リオデジャネイロオリンピックでの日本のメダルラッシュ等も相まって、ちょっとした高揚感が見受けられる。それが消費にも影響している。(乗用車販売店経営者)
- ・リオデジャネイロオリンピックでの選手たちの活躍で気分が上向き、景気は少し良くなっている。8月の好景気は、単純にリオデジャネイロオリンピックのお陰である。(乗用車販売店(従業員))
- ・リオデジャネイロオリンピック以外に大きなイベントもなく自宅にいる時間が長いのか、あるいは人との付き合いを狭めているのか、3か月前と比べて来客数、売上共に減少している。(一般小売店[贈答品]経営者)
- ・8月はリオデジャネイロオリンピックが盛り上がった影響か、来客数が減少している。残暑も厳しいとの予報が出ており、秋物衣料品の動き出しも遅くなる。(百貨店経理担当)

「やや悪くなっている」との回答の中では、客単価の低下を指摘する声が目立つ。スーパー、コンビニなど日用品の買い物でもなるべく安価な商品を選ぶ動きが出てきているようだ。そうした中、円高による価格の下落をプラス材料と評価するウォッチャーのコメントもあった。

- ・8月は売上が前年同月比ではかなりの落ち込みで、販売単価も低い商品しか売れない。客の財布のひもは非常に固い。(一般小売店[電気屋]経営者)
- ・高額商品の販売量が低下傾向である。アップグレード型の店舗の売上が、前年比で悪化傾向にある。競合各社で、価格訴求が強くなってきている。(スーパー営業企画)

- ・競合店のチラシ売価はより安値となっており、今までよりも頻繁に、ポイント 倍デー、 %引きが掲載されている。(スーパーブロック長)
- ・円高でいろいろな商品が安くなり、客にはワクワクしている様子がうかがえる。(商店街代表者)

一方で、家電商品の価格が上昇しているようだが、商品価格の上昇は客数の減少につながっている面もあるようだ。

- ・前年同期より来客数が減少している。商品価格が前年より上昇しているのが原因の一つである。購買意欲は減少傾向である。(家電量販店店員)
- ・来客数が前年に比べて減少し、販売単価の上昇で売上を維持している。来客数の減少は前年から続いており、景気が上向きに転じているとは到底思えない。人口減少や高齢化に伴い、消費性向の高い中高年層の消費が、明らかに減少している。(家電量販店店員)

伊勢志摩サミットのプラス効果が続いているとの声がある一方で、インバウンドについては減少を指摘するコメントが複数見られた。

- ・伊勢志摩サミット終了後、若年層を中心に観光客が増えている。(一般小売店[土産]経営者)
- ・インバウンドの売上が減少し、一般客も販売量が減少している。(百貨店販売促進担当)
- ・円高や熊本地震等の影響で、インバウンドの客が減ってきている。(テーマパーク職員)

「乗用車販売店」のウォッチャーのうち、コメントを寄せたウォッチャーの現状判断は下表のとおりである。7月調査に比べ回答数が1件減少する中、「やや良くなっている」と「やや悪くなっている」の回答がそれぞれ減少し、「変わらない」の回答が増加した。「やや良くなっている」と回答したウォッチャーのコメントは上述のリオデジャネイロ・オリンピックのマインド改善効果を指摘したものであるが、大半を占める「変わらない」というウォッチャーのコメントには、悪い状況が変わらないというものも含まれている。

- ・景気は良くも悪くもないが、最近では、販売時の提案を受け入れてもらえるようになってきた。(乗用車販売店経営者)
- ・車種によっては総受注量が生産台数を大きく上回りオーダー待ちが続いているものもあるが、これまで受注を引っ張ってきた車種で受注減が目につく。購入にあたっての客の目は、非常に厳しくなっている。(乗用車販売店従業員)
- ・新型車種が出るため来客数は増加しているが、他の車種目的の来客数は横ばいである。新型車種は値引きがなく、他社の同型車種と比べて総額では高いため、現時点で必要な人以外は、購入を見送る傾向が強い。特に主力購買層のファミリー層や団塊世代の手ごたえが弱い。(乗用車販売店従業員)

現状判断	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	回答合計
8月調査	0	1	5	3	0	9
9月調査	0	0	7	2	1	10
10月調査	0	1	8	1	0	10
11月調査	0	1	6	2	1	10
12月調査	0	2	5	1	1	9
1月調査	0	2	5	1	1	9
2月調査	0	5	5	1	0	11
3月調査	1	2	5	2	0	10
4月調査	0	1	5	2	0	8
5月調査	0	1	5	4	0	10
6月調査	0	1	3	3	1	8
7月調査	0	2	4	3	0	9
8月調査	0	1	6	1	0	8

企業動向関連では、円高基調が続いていることを懸念するコメントがある一方で、足下で円高が一服していることをプラスに評価するコメントもあり、企業動向・雇用関連の現状判断DIの上昇に寄与している可能性がある。また、円高・円安という水準よりも為替の安定が重要というニュアンスのコメントもある。

- ・3か月前の計画よりも販売量は増加が見込まれるが、引き続き円高の影響を受け、売上高はほぼ横ばいである。(輸送用機械器具製造業経理担当)
- ・国内消費財は、暑さが続き夏物が例年より長く売れ続けており、堅調に推移している。国際物流は、円高基調が続き、輸出入共に前年を5%ほど下回っている。(輸送業経営者)
- ・円高が一服し、受注が安定している。(電気機械器具製造業営業担当)
- ・製造業は円高で苦しいものの、一応上昇には歯止めがかかっているため、現状は変わらない。建設等の内需関連は、大きな変化はないが猛暑により生活関連工事が少し上向いている。医療、サービス業では夏場の落ち込みは季節的な要因であり、特段変わってない。(会計事務所職員)
- ・為替相場が不安定で、輸出入量が減っている状況は変わらない。(輸送業エリア担当)

投資に対する補助金など経済対策に期待するコメントもあったが、一時的な需要増にとどまりそうだ。

- ・行政が上期予算を意欲的に執行する時期となっている。追加の経済政策が決まり、民間には補助金を活用した投資を提案する機会が多くなり反応も悪くないが、経営者層との商談からは、一時的な需要に留まる懸念が強い。(通信会社法人営業担当)

懸念材料として専門性のある人材確保の難しさを挙げるコメントがあった。また、自動車部品メーカーからの引き合いの減少を指摘するコメントがあったが、一部の動きなのか全体の動向なのか注意が必要だ。

- ・放送、通信機器開発や販売会社等での技術革新のスピードが速く、開発能力の向上や事業構造の改革を進めても追い付かず、利益が上がらない。IT系開発要員の増強が急務で、中途採用者を求めても応募はゼロで、新卒採用も理系学生の内定辞退が続いている。技術開発系の中小企業では、焦燥感が高まっている。(電気機械器具製造業総務担当)
- ・自動車部品メーカーからの引き合いが減っている。競争が厳しく、受注する確率も落ちている。(一般機械器具製造業営業担当)

雇用関連のコメントを見ると、自動車メーカーの募集が下期にむけて急増しているとの声がある一方、求職者の減少やミスマッチのため、求人の増加が就職につながっていないという指摘が続いている。

- ・自動車大手メーカーの募集が、下期に向けて急加速で増加してきている。(アウトソーシング企業エリア担当)
- ・求職者が減少しているため、求人倍率は上昇してきているが、就職実績が増えてこない。(職業安定所所長)
- ・求人案件はあるがマッチングできる人材が枯渇していて、紹介ができない。(人材派遣会社社員)

(2) 景気の先行き判断

8月の東海地区の景気の先行き判断DI(47.5)は2ヶ月連続で上昇した。横ばいを示す50を7ヶ月連続で下回っているが、英国のEU離脱問題で大きく水準を下げる前の5月の水準に近づいてきた。家計動向関連の先行き判断DI(47.4)は2ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を7ヶ月連続で下回っているが、5月の水準を維持している。これに対して企業動向・雇用関連の先行き判断DI(47.7)は2ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を3ヶ月連続で下回っており、5月の水準まで戻っていない。先行き判断DIにおいても、英国のEU離脱問題の影響がかなり薄れてきているが、企業動向・雇用関連では円高への懸念もあって先行きに対する見方が慎重である。

先行き判断の回答ごとの内訳をみると下表のとおりである。8月調査では、7月調査に比べて「悪くなる」が減少したものの「やや悪くなる」が増加し、先行きに対する慎重な見方が続いている。一方、「やや良くなる」が増加しており、小幅ながら先行き判断DIの改善が続いた。

先行き判断 (回答者数)	良くなる	やや 良くなる	変わらない	やや 悪くなる	悪くなる	合計
8月調査	1	41	121	55	7	225
9月調査	2	40	134	39	5	220
10月調査	5	57	114	42	2	222
11月調査	4	42	123	45	6	220
12月調査	1	40	117	45	8	211
1月調査	3	54	124	42	7	230
2月調査	4	47	120	54	7	232
3月調査	2	38	124	54	11	229
4月調査	1	28	129	57	10	225
5月調査	1	36	139	38	8	222
6月調査	2	26	103	81	18	230
7月調査	4	28	143	45	9	229
8月調査	4	32	136	51	6	229

家計動向関連の回答では、「悪くなる」(7月:5 8月:4)の減少がわずかであった一方、「やや悪くなる」(31 38)がやや大幅に増加した。このため、「やや良くなる」(21 24)が小幅増加したものの、先行き判断DIは小幅低下した。

家計動向関連で「やや悪くなる」と回答したウォッチャーのコメントを見ると、インバウンドの先行きについても懸念する声が複数ある。

- ・インバウンドの売上減少と共に、一般客の販売量も減少が見込まれる。(百貨店販売促進担当)
- ・衣料品の落ち込みに加え、インバウンドの急減もあり、売上増加を期待できる要因が乏しい。(百貨店経営企画担当)
- ・2~3か月先の予約は、前年同期比90%前後と、現状よりもやや悪い。新たな景気の下支え策もなく、インバウ

ンドにも以前ほどの勢いが無い。来年は当地を舞台とする大河ドラマがあるが、今のところ特段の影響もなく話題性に欠けるため、先行きはやや悪くなると見込まれる。(観光型ホテル経営者)

全般的に、節約志向、低価格志向の高まりを懸念材料ととらえる声が続いている。

- ・安価な商品は順調であるが、千円以上の商品の売行きが非常に厳しい。(商店街代表者)
- ・全体的に小売業の売上が落ち込んでいるという話をよく耳にする。客の財布のひもは固く、必要以上の物はなかなか購入しないように見受けられる。景気が良くなる要因もないので、しばらくは現状維持がやっとである。(その他専門店[書籍]店員)
- ・客単価の下落が続いている。セール品はそれなりに売れるが、通常の値段に戻すとパツリと売れなくなる。競合店ができるので、先行きには来客数にも影響が表れそうで、更に厳しくなる。(コンビニエリア担当)
- ・外食に対する財布のひもが緩む材料がない。日常生活での金の使い方は更にメリハリがつき、外での飲食の機会は減る一方にある。(一般小売店[酒類]経営者)

全国的に大雨や台風の被害が続いているため、天候被害を懸念する声が多く見られる。節約志向、低価格志向が続いていることも、天候被害による農作物の価格高騰に対する懸念を大きくしている可能性がある。

- ・災害を含む悪天候による農作物への被害が大きく、野菜の価格が高騰しており先行きへの影響が懸念される。近頃は、常に天候不順による不作が言われている。(スーパー経営者)
- ・生鮮食品に関しては、足元もやや悪い状況であるが、この先も、良くなる要因より天候不順による値上げといった要因の方が強い。(スーパーブロック長)
- ・東日本や北海道では荒天による作物への影響が心配される。特にたまねぎが高騰しており、台風の影響次第では、一層の価格上昇を懸念する。(スーパー店員)

一方、家計動向関連の「やや良くなる」との回答を見ると、季節が秋になることによる改善を見込むものが複数ある。季節要因による改善は景気動向とは別の点には留意が必要だ。

- ・秋の気配が出てくれば、現状よりは良くなる。(一般小売店[結納品]経営者)
- ・例年、秋から冬にかけては受注増加が見込まれる。(一般小売店[書店]営業担当)
- ・夏に比べて、秋口から冬の方が商品数も増え、売れる時期となる。これから暮にかけては、プレゼント用商品の動きが見込める。(その他専門店[貴金属]営業担当)

見方を変えれば、季節要因以外には良くなる要因が見つげにくいといった状況と言えよう。

- ・良くなりそうな要素が全くないので、現状から変わらない。(商店街代表者)
- ・良くなる要素が見当たらない。(タクシー運転手)
- ・好転する要素が見当たらない。(テーマパーク職員総務担当)
- ・良くなる要素がない。(一般レストラン経営者)
- ・景気浮揚のきっかけが見当たらない。(その他飲食[仕出し]経営者)

節約志向、低価格志向が続く中、価格低下という円高のメリットに期待するコメントもあった。

- ・円高が一層進めば、魅力のある商品が更に増える。(商店街代表者)

乗用車販売店のウォッチャーのうちコメントを寄せたウォッチャーの先行き判断をみると、以下のとおりである。回答数が計12件と少ないことに留意する必要があるが、今月は「やや良くなる」という前向きな回答が減少し、「変わらない」「やや悪くなる」との回答が小幅増加した。新型車の投入に期待する声がある一方、新車買い換え減少が懸念材料のようだ。

- ・来月に新型車の発表があるので期待したい。(乗用車販売店経営者)
- ・これから秋の高戦が始まり、各社で新型車種が投入される。客の新車への興味の高まりを期待するが、客も将来的な収入増加が見込めないなかでの商談は、これまで以上に厳しく、新車に買換える効用をいかに説明できるかが重要となる。(乗用車販売店従業員)
- ・新車販売は横ばいが続く。ガソリン価格が落ち着いているので、ハイブリッド車の動きも鈍い。全体的に買い控えの印象を受ける。車検は引き続き好調で、目標を上回る数値で推移しているが、新車への買換えが減っている表れでもあり悩ましい。このような傾向がここ半年続いており、しばらくはこの状況が続く。(乗用車販売店従業員)
- ・10月から全車種で3%程度の値上げ予定となっている。9月までは駆け込み需要もあるが、その後どうなるかは、不安定な状態である。(乗用車販売店販売担当)

先行き判断	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	回答合計
8月調査	0	2	7	3	1	13
9月調査	0	3	9	1	0	13
10月調査	0	4	8	0	0	12
11月調査	0	2	10	0	0	12
12月調査	0	3	7	0	0	10
1月調査	0	3	8	2	0	13
2月調査	0	1	7	5	0	13
3月調査	0	0	10	1	1	12
4月調査	0	0	10	1	1	12
5月調査	0	3	8	2	0	13
6月調査	1	0	8	1	1	11
7月調査	0	4	7	1	0	12
8月調査	0	2	8	2	0	12

企業動向関連でも良くなる理由として季節要因をあげる回答がある一方で、季節的な盛り上がり果たして出てくるのか懸念するコメントもある。

- ・取引先の様子からは、非常に良くなるというほどではないが、例年、秋の特需がある時期となるため、今よりは良くなる。(パルプ・紙・紙加工品製造業総務担当)
- ・客先業界の今後の展開は良くわからないが、年末に向けては若干の期待が持てる。(電気機械器具製造業経営者)
- ・例年は9月からは受発注が多くなるが、今年はその動きがみえない。多少は増えたとしても、季節要因を上回るほどではない。(鉄鋼業経営者)

懸念材料として、英国のEU離脱問題は落ち着いてきたが、相変わらず円高を懸念材料として挙げるコメントが多い。

- ・自動車の生産量に比例して加工量も増えてはいるが、一時期の円安と比べるとはるかに円高となっており、先行きには不安を感じる。(輸送用機械器具製造業研修担当)
- ・円高が定着化してきており、自動車産業を中心とする当地域では、消費者マインドの冷え込みが懸念される。(建設業経営者)
- ・円高により輸出型の大企業で業績が悪化し、それが中堅・中小企業にも大きく影響する。(公認会計士)

円高が続くことも影響して設備投資の先行きを懸念するコメントが、雇用関連のウォッチャーも含めて出てきている。

- ・円高でも製品価格は変更できないため、収益を圧迫している。自動車部品メーカーでは、設備投資計画の縮小や延期がみられる。(一般機械器具製造業営業担当)
- ・一部の企業では工場増設等の動きも出ているが、円高基調に反応して、全体的には動きが慎重になっている。(新聞社[求人広告]営業担当)
- ・企業からは人手不足の声も聞かれるが、英国のEU離脱問題や欧州でのテロ等、世界情勢の影響で為替や株価の動きも先行き不透明となり、大手企業等の投資が鈍化することが懸念される。(職業安定所職員)

政府の対策については、何か期待するというよりも、従来型の対策を続けることに対する冷静な疑問も出ている。

- ・内閣が新しくなって新しい経済対策を期待したが何もなし。アベノミクスの効果は、生活面での実感がなく、企業活動でも感じられない。荷物の量が増えて活性化するような動きが、実際には全くないことを考えると、日本経済は行き詰まっている。(輸送業エリア担当)
- ・もう一段のマイナス金利もあり得るという日銀総裁のコメントもあるが、これだけ長期に景気低迷が続くと、期待ほどの効果はないと気付くべきである。いかに持続可能な経済にするかという視点が大事である。(通信会社法人営業担当)

雇用関連では、これまでと同様の雇用環境が続くようだが、最低賃金の引き上げが中小企業の雇用意欲にマイナスに働くのではと懸念するコメントがあった。

- ・10月に最低賃金の引上げが予定され、中小企業の経営環境は厳しくなる。雇用面での拡大が期待できない。(職業安定所所長)

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）
 - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
 - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の3項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
 - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
 - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1)(2)については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の5段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じてDIを算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、DIは50となるため、DI=50が景気の横ばいを示すこととなる。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
	(良い)	(やや良い)	(どちらともいえない)	(やや悪い)	(悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、静岡、岐阜、愛知、三重の4県が対象となっている。

調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照下さい。

(お問い合わせ) 調査部 TEL:03-6733-1070 E-mail: chosa-report@murc.jp